

| 今月の経済動向（平成27年6月）

● 月例経済報告/金融経済月報

	月例経済報告（内閣府・6月15日）	変化*	金融経済月報（日本銀行・6月22日）	変化*
景気基調	景気は、緩やかな回復基調が続いている。 先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。	⇒	景気は、緩やかな回復を続けている。 先行きについては、景気は緩やかな回復を続けていくとみられる。	⇒
民間消費	持ち直しの兆しがみられる。	⇒	雇用・所得環境の着実な改善を背景に、底堅く推移している	⇒
設備投資	このところ持ち直しの動きがみられる。	↑	企業収益が改善するなかで、緩やかな増加基調にある。	⇒
住宅投資	持ち直しの動きがみられる。	⇒	持ち直しつつある。	↑
雇用	改善傾向にある。	⇒	着実な改善を続けている。	⇒
生産	このところ一部に弱さがみられるものの、持ち直している。	⇒	内外需要の緩やかな増加を反映して、持ち直している。	⇒
輸出	おおむね横ばいとなっている。	⇒	持ち直している。	⇒
国内企業物価	このところ緩やかに上昇している。	⇒	国際商品市況の動きを反映して、3か月前比で緩やかに上昇している。	↑
消費者物価	緩やかに上昇している。	⇒	消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベースでみて、0%程度となっている。	⇒

* 前回からの変化: 上方修正 ↑、下方修正 ↓、据え置き ⇒

[月例経済報告：内閣府](#)

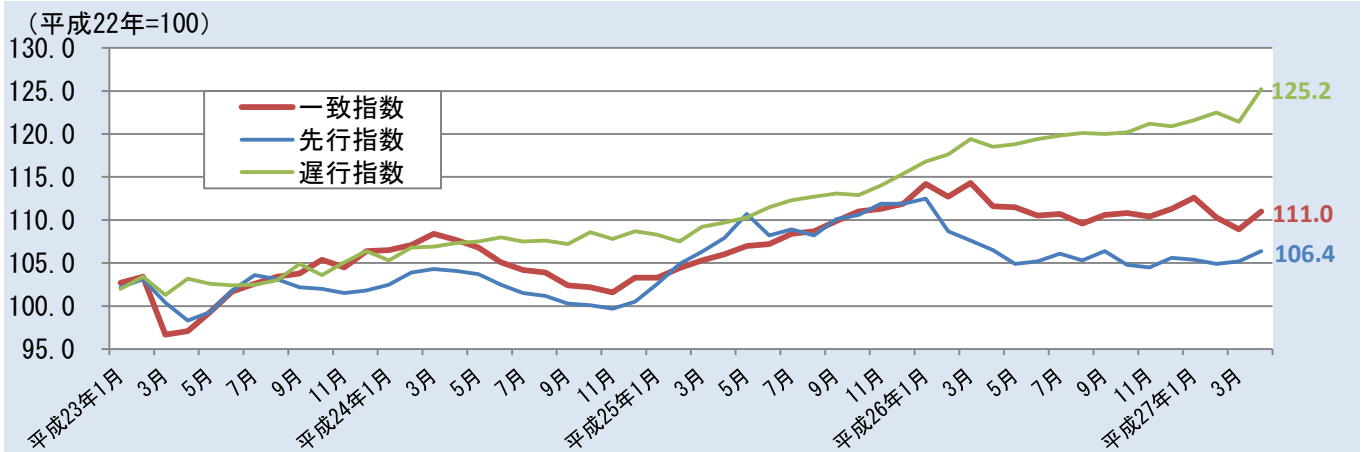
[金融経済月報：日本銀行](#)

● 景気動向指数（平成27年3月）

平成27年4月のCI一致指数(改訂値)は前月より2.1ポイント高い111.0ポイントとなり、3ヶ月ぶりに前月を上回った。CI先行指数は2ヶ月連続で上昇し106.4ポイント、遅行指数は2ヶ月ぶりに上昇し125.2ポイントとなった。

景気の基調判断(CI一致指数)は、「改善を示している」を据え置いた。

・CIの推移



[景気動向指数：内閣府](#)